



コミュニティ・スクールとしての取組

地域社会の資源を活用した体験学習

弘前

泥の感触楽しみ 5年生が田植え

石川小

弘前市の石川小学校(相馬伸光校長)の5年生22人が5月29日、田植え作業を体験した。青空の下、児童たちははだしで田んぼに入り、泥の感触を味わいながら苗を手植えた。

5年生による田植えは毎年行っている。総合学習「食を見つめよう」の一環で、地元の「乳井みどり保全会」が協力した。学校近くにある1畝の田んぼでは、児童たちが植え方を教わりながら手植え作業に挑戦した。

田植え作業は初めてとい



田植えに挑戦する石川小の5年生たち (同校提供)

う児童がほとんどで、転んでしまつたなど悪戦苦闘する姿もみられたが、もち米「アネコモチ」の苗を丁寧に植えていった。

児童たちは今後、定期的

に田んぼで稲の成長過程を観察する予定。秋に収穫した後、来年2月の石川公民館まつりで餅つきを行い、住民らに振る舞うことになっている。

「東奥日報」(30/6/1)より

小学校では地域の資源と教育力を活用し、また、関係団体とも連携・協働して、毎年取り組んでいます。子ども達の学びを地域が支えています。

地域に貢献するボランティア活動

石川は東北縦貫自動車道の出入り口に位置し、「弘前市の南の玄関口」になっていて、交通量が多い地域です。また、中学校の野球グラウンドのバックネット裏は安全地帯になっており、長距離トラックの休憩場所になっています。ゴミのポイ捨てが多いので、中学校では毎月、部活動ごとにゴミ拾いのボランティア活動をするようになりました。「弘前市・石川」に微力ながら貢献する活動をしていきたいと思えます。



安全地帯には、ペットボトルの
カラ、空き缶、カップ麺のカ
ラ、煙草の吸い殻などが捨てら
れています。

陸上部では、約10袋分のゴミを
拾いました。(5/25)



小・中合同ボランティアも行いました。
(5/29)



P T A 環境整備の際は小・中学校周辺のゴミ拾いも行い、学校運営協議会
委員の方も参加してくれました。(6/3)



小中一貫教育に係る取組

授業づくり・健康づくり



小学校の算数の研究授業（2年
生）に中学校の数学教員が参加し
ました。(5/30)



小学校では中休みの時間に、中学校では体育の時間の初めにランニ
ングを取り入れ、継続的に「健康づくり・体力づくり」に取り組ん
でいます。



6月28日（木）、小中合同1日参観デーがあります。地域の皆様もどうぞ御来校ください。

